

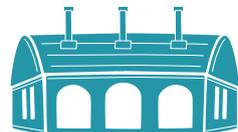
## 北海道最初の汽笛からはじまったまちづくり

01

きゅう てみや てつどう しせつ

## 旧手宮鉄道施設

- 所在地：小樽市手宮1丁目3番6号
- 問合せ先：小樽市総合博物館（TEL 0134-33-2523／見学には入館料が必要です）
- 休館日：毎週火曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始、臨時休館あり



小樽が北日本随一の経済都市として大きく飛躍したきっかけは、「官営幌内鉄道」（幌内～手宮）の開通にあります。

官営幌内鉄道は、北海道の中央部、幌内（現三笠市）から石炭を運び出す手段として明治15（1882）年に全面開通した北海道で初めての鉄道です。その起点となったのが、幕末から良港として知られていた手宮地区でした。

現在、手宮地区には、官営幌内鉄道、それを継承した北海道炭礦鉄道、さらに国営化後に至るまでのさまざまな鉄道遺構が残されています。

手宮駅跡地（小樽市総合博物館構内）に残る「旧手宮鉄道施設」は、機関車庫、危険品庫、貯水槽、転車台、よう壁から構成される一連の文化財群であり、蒸気機関車が主流であった時代の鉄道システムを現在に伝えています。

中でもレンガ造の機関車庫三号（明治18<1885>年竣工）は、現存する国内最古の機関車庫というだけでなく、フランス積みの美しい外壁や、扇形の平面に明かり取りの越屋根を付ける複雑な小屋組みなど、明治前期を代表する建築と言えます。また機関車庫三号と並んで建つ機関車庫一号は明治末期に作られたもので、5口の内3口は平成8年に復元されたものですが、向かって右側の2口は建設当時のままで残されています。

機関車庫と転車台（橋梁部分は大正8年製造）はともに動態保存の蒸気機関車の運行に活用されている現役の重要文化財でもあります。

石炭輸送の最盛期を物語る数少ない遺構としては、総合博物館北東の崖面に、船に石炭を積み込むために作られた高架栈橋への引き込み線の路盤を支えていた、レンガ積みのような壁が保存されています。



【写真】1 旧手宮鉄道施設 2 転車台 3 機関車庫三号の窓